

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～長崎県～

- 言語活動を中心とした授業を行い、英語4技能をバランスよく育成する指導力の向上が必要である。(高等学校)
- 英語で授業を行うための英語力の向上と児童生徒の言語活動を充実させる指導力の向上が必要である。(中学校)

○大学の専門的な指導を受け、教員の英語力・指導力の向上と授業改善を図ることにより、児童生徒の意欲向上と英語力向上を目指す。

【小・中学校】

具体的な取組内容

- 長崎県英語教育推進協議会(H28～H30 年2回、計6回開催)
 - ・全市町、4大学、附属学校、教育機関での共通理解、情報共有
- 推進リーダーを活用した指導力向上研修(地区別研修会)
 - ・全小学校中核教員(331名)、中学校英語教員(388名)受講
 - ・伝達研修(3日間)を実施
- 大学と連携した英語指導力向上事業
 - ・小学校4校、中学校3校(H28～30)に大学が年間4回指導
- 外部試験(TOEIC IPテスト) ※県費
 - ・中学校教員200名受験(H28～30)

【小中高連携】

外部連携(1市)、県事業(2市)における小中高連携の実践(授業参観、合同研修会パフォーマンステストの実施)

【高等学校】

- 指導力向上のための研修会
 - ・英語科主任研修会、リーディング指導研修会、パフォーマンステスト研修会等(H28:33校、H29:32校、H30:大村市の小中高教員対象)
- 英語力向上のための研修会及び外部試験(TOEIC IPテスト)
 - ・講義、演習及び外部試験実施(教員110名受験(H28～30))
- 高校生英会話カテスト
 - ・県独自開発のインタビューテストを全日制生徒全員を対象に実施

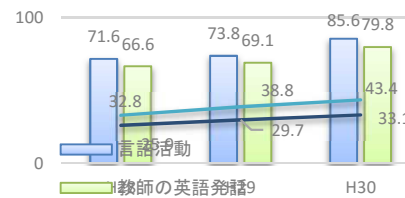
成果の波及・周知について

- 研修協力校の研究授業を域内及び県下全域に公開
- 「長崎県英語教育推進協議会」において研修協力校の取組を紹介
- 県教委HPに研修協力校の指導案・資料等を掲載し公開
- 「学力アップ通信」・「NEWS LETTER」によって取組の成果を発信

成果

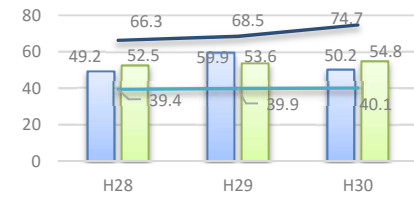
中学校における授業改善と英語力

言語活動の割合、教師の英語発話が増え、授業改善が図られていることがわかる。



高等学校における生徒と教師の英語力

求められる英語力を有する教員が大きく増加している。



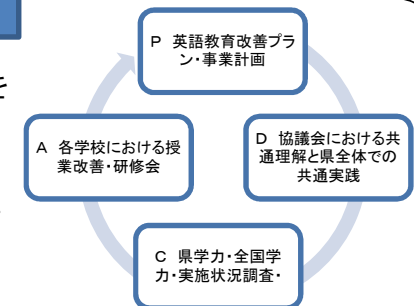
※言語活動・英語発話は授業の半分以上とする

課題

- 地域における連携や取組の差
 - ・市町の規模によって小中高連携の推進が困難な地域がある。
 - ・地域によって授業改善の取組に差が見られる。
- 小中高で一貫した言語活動を中心とした授業への取組
 - ・高等学校における言語活動の量と質の向上、中学校教員の英語力向上

課題解決のための手立て

- 県学力、全国学力調査の結果を分析し、授業改善の推進が進んでいない地域を重点的に指導
- 成果と課題を、長崎県英語教育推進協議会で共有し、県下全域で一体となって英語教育を推進



平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～長崎県島原市立第三中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

【現状の課題】 向上心が低く、スピーチやプレゼンテーションなど発信する力が弱い。

【課題解決のための手立て】主体的に取り組むことができる場面設定を用いたプロジェクト形式の授業を行う。

具体的取組の内容

【具体的取組】

- プロジェクト形式での主体的・対話的な深い学びを実現する授業を仕組む。
- ONIEを用いて情報活用能力の向上を目指す。
- 毎時間の帯活動で、1分間のフリートークと多読・速読の取組を実施する。
- ALTの活用(文法指導をオールイングリッシュで実施する)



写真を見せながら、自分が行きたい場所の魅力を紹介



ALTがイラストを使いながら新出文法を英語で導入

【公開授業等】

- 授業参観(9/18実施、1/18実施予定)、県教委、市教委、大学教授にプロジェクト形式以外の授業を公開し、授業研究を行った。
- 研究授業(7/18、10/19実施)、県教委、市教委、大学教授が授業を参観し、授業研究及び研究の今後の方向性について話し合った。
- 公開授業(11/30実施、2/14実施予定)、県教委、市教委、大学教授及び、市内中学校英語教員、市内小学校外国語担当教師を対象に公開授業を行い、授業研究及び小中学校の英語指導での課題の共有や解決のための具体的対策について話し合った。

成果①

①生徒アンケート(3年生で実施)

- 英語の学習は好き…… 53%
- 英語の授業は面白い…… 77%
- 将来英語は役に立つ…… 83%

②県学力調査(英語)

県全体の平均との比較(経年比較)

- H25 -7.4
- H26 -5.3
- (研究開始)H27 +5.3
- H28 +9.1
- H29 +1.1
- H30 +8.3

H30の学力調査の領域別比較

- 表現…… +19.6
- 理解…… +4.6
- 言語文化… +1.9

成果②

【生徒の変容】

○知識・技能

・応用的な英語を用いることで、基礎的な英文法への理解が深まった。

○思考力・判断力・表現力

・発表活動において、効果的な視覚材料を選んで活用し、豊かな表情やジェスチャーを交えて発表できるようになった。

・友達の意見に対して自分の考えを述べ、話し合い活動を通してより良いものを作り上げようとするコミュニケーション力や協働性が高まった。

○学びに向かう力・人間性

・主体的に情報を集めようとする姿勢が身につく、求める情報を素早く収集し、その情報を精査して必要な情報と不必要な情報を見分けることができるようになった。

・新しく学習したことでも失敗を恐れずに、積極的に活用しようとする姿勢が身についた。

・人前で発表した成功体験の積み重ねで、自分の行動に自信を持てるようになり、難しい課題でも最後までやり遂げようとする姿勢が身についた。

・より良い発表(プレゼンテーション)をしようとする生徒が増えた。

・低学力の生徒も生き生きと活動する姿が見られた。

今後の課題・方向性

【課題】

- プロジェクトの時間確保が難しい。
- 即興での英語のやりとりが不十分である。
- ドリル的な書く活動が不足し、単語のスペルミスが目立つ。

【今後の方向性】

- プロジェクトのためのカリキュラムマネジメント
- 日々の授業(特に文法指導時)をオールイングリッシュ行うことによるコミュニケーション授業の実践。
- 帯活動における書く活動の継続的な実施。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～長崎県立大村高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題: 高校入学時から言語活動に対して積極的に取り組む一方で、意味のある英文で流暢に話したり、即興でやり取りしたりすることが苦手である。

手立て: 1、2年生のコミュニケーション英語の授業において、ペアやグループでの活動を通して、相手の話を聞いて自分の考えを英語で述べたり質問したりする言語活動を増やす。また、外部専門機関や市内の小中学校と協力し、小中高で連携した外国語教育の推進を図る。

具体の取組の内容

1. 授業開始時の1minute talkや写真・絵などを用いたリテリング、教科書のテーマに沿った内容での意見交換などの言語活動を数多く取り入れる。
2. スピーキングテストを年2回実施する。
3. 多読教材を活用し、場面や状況に合った表現方法を身に付ける。
4. 市内小中高校の外国語担当者が合同で外部専門機関による研修会や公開授業などを実施し、高校生の実態を把握してもらったり、情報交換などを行った。
5. 図書館だよりで英語の多読教材を紹介し、朝の読書の時間も積極的に英語に親しませる。

小・中・高連携における取組

1年生数理探究科の生徒に対し、大村市内の小・中・高の英語担当者を面接官としてスピーキングテストを実施した。テスト後には、面接官から生徒へのフィードバックも行った。



成果①

◎「授業の半分以上の時間、言語活動を行っている教師の割合」がコミュニケーション英語 I において増加。

	H30	H29
コミュ英 I	80%	50%
コミュ英 II	75%	80%

ペアやグループでの言語活動の回数を重ねることで、相槌や質問の仕方、様々な表現などが身に付いてきた。また、外部実力テストにおいて、リスニング力の向上が見られた。

成果②

◎年3回の研修会では、公開授業や情報交換会を通して、小中高の外国語教育について方向性や指導法について情報を共有することができた。

◆アンケート結果
「公開授業やスピーキングテスト、他校種との情報交換が今後の授業の参考になった」と答えた研修会参加者の割合

	5月	7月	11月
大変参考になった	52.9%	58.8%	36.8%
参考になった	47.1%	41.2%	63.2%

今後の課題・方向性

- ①即興的なやりとりでは正確さに課題が残るため、授業中の生徒の英語による発話時間を維持し、流暢さだけでなく正確さも意識した言語活動をさらに取り入れていく。
- ②次年度6月に受験するGTECIにおいて、結果を今年度と比較し、生徒のスピーキング力の向上を検証する。
- ③小中高で密に連絡を取りながら、連携をさらに推進し、生徒の英語力を地域で育成していく。